

1. 評価結果概要表

作成日 2009年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0870700317		
法人名	有限会社かなくぼ薬局		
事業所名	グループホーム ハーモニー城ノ内		
所在地	茨城県結城市結城8670-2 (電話) 0296-33-8265		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年2月15日	評価確定日	平成21年5月12日

【情報提供票より】(平成20年 1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 7月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16人	常勤	12人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.5~7.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,350円			

(4) 利用者の概要(1月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	2名	要介護2	6名		
要介護3	9名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5歳	最低	61歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	結城病院 城西病院 大木医院 三木歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

窓からは広々とした田畑や民家、徒歩で散歩できる距離に時季には桜の見事な運動公園がある。ホームは、どの居室からも住み慣れたわが故郷の景色を眺め暮らすことができる間取りになっており、また採光をうまく取り入れた構造のため、室内もとても明るい印象がある。庭にはペットとして「黒の子豚」が一匹飼育されており、散歩や日光浴など、折々に入居者の心を和ませてくれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	災害対策に関して、運営推進会議で近隣への協力依頼を続けているが、ホームだけでは解決しない問題だけに、行政や自治会の協力を得たい。ホームとしても、備蓄品の準備などが今後の課題。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	評価項目ごとに、職員の担当を決め、それぞれの意見を大切にしながら、最終的に管理者がまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	テーマとしては、外部評価の報告や避難時の近隣住民への協力依頼、ホームの活動報告など。推進会議の報告は、朝礼時、管理者から職員へ伝えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	苦情箱の設置はあるが、意見が入れられていることはない。ご家族からのご意見は、職員や管理者が直接うかがうことが多い。また、頂いたご意見は速やかに職員の会議で伝達、検討され、なるべく早い時期にご家族へ返答するよう心がけている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	隣接の運動公園で行われる行事への参加や、中学校や幼稚園との交流など、積極的に参加されており、地域への密着を念頭に努力されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、理念を大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関や事務所に掲げてあり、朝礼時には全員で復唱している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして自治会に加入している。ホーム利用者が自治会活動に参加するまでに至ってはいないが、地域の行事への参加や、民生委員からホームの催しのお知らせを地域へ配布してもらう等、努力されており、更なる活動が期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価にあたっては、各項目ごとに担当職員を決めることで、現場の声を大切に、具体的な評価に取り組まれている。最終的にまとめは管理者が実施するが、その経過は職員の会議で報告され、また、結果は誰でも目が通せるよう掲示されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催されている会議では、利用者、ご家族、自治会長、民生委員、行政の参加があり、更なるサービス向上、地域密着への啓蒙を念頭に話し合いがもたれている。テーマとしては、外部評価の報告や、災害対策など。		

茨城県 グループホームハーモニー城ノ内

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内では市から委託された「配食サービス(一日10件)」を行っている。配食時、利用者の具合が悪いときなど、担当のケアマネジャーや市の担当者へ連絡をとるなど、配食サービスを安否確認としてもとらえ貢献されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に対し手紙で近況報告を行っている。この手紙は、利用者一人ひとりに担当が決まっており、毎月その担当者からご家族へ発送される。担当を決めることで、決め細やかな気づきや、話しやすい関係作りの構築などに期待している。面会時などの日常的な報告のほか、年に一度の家族会も開催。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は職員の会議にかけられ、早々に返答できるよう努力されている。また話し合いの経過は議事録に残している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の声に耳を傾け、悩みをきくことで、仕事への不安を解消すべく努力されている。職員の異動は2ユニットあるため、各ユニット間や、併設のデイサービスとホーム間の異動もあるが、職員の送別会を利用者を交え行うなど、家庭的で暖かな交流を心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時、職員一人ひとりに「個別ノート」を渡し、利用者の情報やケアの過程での気づき等記録してもらっている。職員の「利用者を見る眼」を育てたいという管理者の発想から、今も続いている。また、新人職員には夜勤も先輩が指導するなど、不安軽減に努めている。法人内外の研修へも参加、会議で参加報告を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	結城市ではグループホーム連絡協議会が無い。管理者は行政に対し、運営推進会議を通して、その設置要望への支援を重ねて行っているが、いまだ具体的な回答は無い。施設として市内ホームの相互交流を持つことで、全体のサービス向上を目指したいと考えている。行政の速やかな協力を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人内のデイサービス利用の方には、ホームの見学をして頂いたり、デイサービスの利用のない方でも、入居契約は、必ず施設内を見て頂いてから行っている。また、在宅の担当ケアマネジャーからも、ホームの様子など、説明して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を大切にし、出来ることはやって頂き、できないことはさりげなく介助している。各人の意欲や得意なことを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を把握するため、個別のノートを活用している。ゆっくりと利用者に向き合い、じっくり話を聞くようにし、新しい気づきを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「変化が期待できる支援」「個別的な支援」に分けてプランを作成している。”できない”と決め付けず、ご本人の思いはもとより、ご家族の希望や職員の日常の気づきを大事に具体的な計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者一人ひとりに、職員の担当が決まっている。職員は日頃から「個別ノート」「生活ノート(利用者の経過記録)」を活用し、利用者の変化を管理者に報告したり、会議で発表している。ここから、新しい計画が作成されることもある。		

茨城県 グループホームハーモニー城ノ内

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の希望に応じ、通院サービスを行っている。また同法人でのイベントに合同参加するなど、交流の機会を増やすようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりに「受診ノート」を準備している。このノートには、ホームから医師への報告を記入し、また、医師からの指示を記入していただくこともある。2週間に一度の往診以外の日常の変化も医師に報告できるようノートの活用をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約書に、医療の必要時、受診や病院への搬送を明記しており、契約時に了解を頂いている。入院時は1ヶ月間はホームの契約は継続になっている。入院が一月以上になる場合でも、退院の見込みがある場合には、居室確保できる場合がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の関わりにおいてプライバシーを重視することはもちろんのこと、入職時には守秘義務に関して説明し、それを守ることを文書で交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして大まかな一日の流れはあるが、散歩や買い物など、個人の希望に添えるよう支援している。またその支援はケアプランに反映させている。		

茨城県 グループホームハーモニー城ノ内

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や調理は担当の栄養士、調理スタッフが担当。しかし、朝食や日曜日の調理は、職員が行っている。また毎日のおやつ作りや食器洗い、下膳など、利用者と共にいき、食事と一緒にすることで、喜びを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したがる利用者が多いが、仲の良い方同士の入浴を声掛けするなど、工夫し、できるだけ気持ちよく入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	芝刈りや庭の草むしり、縫い物や野菜きりなど、それぞれに得意とすることを行うことも日常のやりがい、楽しみと捉え、見守り、支援している。毎日職員と共に居る居室の清掃も、日々の日課となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩はどの利用者もとても楽しみにされており、最高齢の90歳代の利用者も、近隣の運動公園まで歩くことができる。これも、日常的に日光浴や散歩を続けている。散歩で季節の花を摘んだり、ペットの子豚に声をかけたり、職員と子ども日頃の外出に小さな幸せをみつけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室も玄関も施錠していないが、ひとりで外に出てしまう利用者は現在はいない。建物の構造が、ふたつのユニット間も、ホームと併設のデイサービスも行き来が可能で、歩き回れる構造になっていることも、利用者のストレスフリーに役立っている印象。施錠していないだけに、職員は常に利用者の所在に注意をむけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署と防災設備業者、参加の防災訓練を行っている。現在は夜間想定避難訓練は実施していないが、その重要性は認識しており、地域の協力を頂きながらの訓練を具体的に進めたいと検討中。その実現に向けて、運営推進会議でこれまで同様、重ねてテーマにしていきたいと考えている。	○	備蓄品の準備や、地域を巻き込んだ避難訓練の実現など、取り組んで頂きたい。具体的な実現にむけては、施設の思いだけでは実現は難しいと思われる。行政はじめ、関係者からの活発な意見交換を期待する。

茨城県 グループホームハーモニー城ノ内

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、排泄パターンを記録している。また月に一度の体重測定も実施している。栄養バランスは栄養士が管理しているが、個人の茶碗や箸を持ち込んでいただき、個人の習慣に合わせた食事が採れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が多く全体的に明るい。また自由に歩ける構造になっていて、穏やかに過ごせる環境。各ユニットどちらからも中庭に出られる。この中庭には砂利を敷いたスペースに手すりがあり、素足で歩くことでその感覚を楽しんだり、季節の花の植え替えや草むしりなど出来る。この開放的な中庭は、どの位置からも職員が目が届くように配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや仏壇など、自分の身の回りのものを持ち込めるようになっている。また、各部屋ごとにカーテンの色を変えてあり、そのことで、共同生活にあっても、個人の生活空間や時間を確保し、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		